

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 都市整備課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	土地利用・都市基盤		実施計画事業	土地利用調整事業(No.37)				
予算等事業名	一般経費							
目的	27年度に策定した都市づくりの総合的な指針となる都市計画マスタープランのもと、魅力あふれる都市づくりを推進するとともに、まちづくりに関する条例を制定することにより、良好な住環境の形成を図る。							
内容	・第7回線引き見直し							
根拠法令・条例等	都市計画法							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		第7回線引き見直しについては、11月1日をもって告示されることが予定されているため、今年度中に事業完了となる。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		第7回線引き見直しについては、11月1日をもって告示されることが予定されているため、今年度中に事業完了となる。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 第7回線引き見直しについては関係各課と協議しながら、今後10年の都市づくりの根幹となる指標をつくることのできた。今後は、その進行管理について適正に行う。				

総合評価

実績	—		
中間評価との相違点	—		
事業指標(数値指標)	—		
中期(28年度)目標値	—		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	—		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		0	0				
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	C
	【説明】 計画策定は完了したため、今後は公費をかける必要性がない。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 都市計画は町のハード事業の根幹となるため、町が主体となるべきである。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 今後、10年の計画を策定することができた。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 28年度においては、費用をかけずに計画を策定することができた。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 平成28年度においては、効率よく費用をかけずに計画を策定することができた。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後は、策定した計画の進行管理を行う。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持 <input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止			
理由	今後、10年の計画を、効率よく費用をかけずに策定することができたため。		
今後の方向性	今後は、策定した計画の進行管理を行う。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 都市整備課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	土地利用・都市基盤		実施計画事業	土地利用調整事業(No.37)				
予算等事業名	開発等指導事業							
目的	27年度に策定した都市づくりの総合的な指針となる都市計画マスタープランのもと、魅力あふれる都市づくりを推進するとともに、まちづくりに関する条例を制定することにより、良好な住環境の形成を図る。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・開発指導要綱による指導 ・開発における手続及び基準に関する条例の制定 ・(仮称)まちづくり条例の制定 							
根拠法令・条例等	都市計画法、二宮町開発指導要綱							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		町職員により実施しているため			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		条例制定については、最短のスケジュールで検討しているものの、現在実施している県協議の後は検察協議を実施する必要があるため、これ以上の効率化は困難。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 平成30年1月施行を目標に制定作業(原案策定・関係機関協議等)を進めており、スケジュールどおりに進行している。				

総合評価

実績	—		
中間評価との相違点	—		
事業指標(数値指標)	—		
中期(28年度)目標値	—		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	—		

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		0	0				
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	C
	【説明】 開発指導及び開発関係条例の策定においては、一般経費(職員人件費)以外の公費を投入する必要はない。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 住環境整備の根幹となるものであることから、町が主体となって実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 開発指導においても、条例制定に向けても順調に進捗している。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 一般経費(職員人件費)以外の費用をかけずに実施している。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 開発指導及び開発関係条例の策定においては、費用をかけずに効率的に推進し、順調に進捗している。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	開発条例については、平成30年1月施行を目標に進めているが、今後も検察庁や神奈川県との協議を進めていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持 <input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止			
理由	公共施設管理者として、民間開発行為に対し、今後も適正な協議を実施していく。		
今後の方向性	開発指導要綱の条例化に向けた検討を実施していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 都市整備課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	土地利用・都市基盤		実施計画事業	土地利用調整事業(No.37)				
予算等事業名	都市計画審議会経費							
目的	27年度に策定した都市づくりの総合的な指針となる都市計画マスタープランのもと、魅力あふれる都市づくりを推進するとともに、まちづくりに関する条例を制定することにより、良好な住環境の形成を図る。							
内容	・都市計画決定等の案件についての審議							
根拠法令・条例等	都市計画法、二宮町都市計画審議会規程							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		都市計画審議会条例により委員定数がさだめられており、経費の大部分がその委員報酬となっているため。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		都市計画決定案件がある都度の審議会開催となることから、効率化を図るものではない。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)						A
	【説明】 平成26年の剪定枝資源化施設の都市計画決定以来、都市計画決定案件はないものの、今後、都市計画の立案・見直し等がある場合には、適正に事業を推進する。						

総合評価

実績	—		
中間評価との相違点	—		
事業指標(数値指標)	—		
中期(28年度)目標値	—		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	—		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		126	57				
財源内訳	一般財源	126	57				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 会議出席者に対する報償費となるため妥当である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 審議会は諮問機関となるが、委員委嘱は町長となるため町が主体となる必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 平成28年度においても、町長の諮問に対して答申を出していることから成果は上がっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 費用は、公的機関職員を除く委員への報償費となることから、適切である。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 都市計画の案に係る町長からの諮問に対して、答申を出すことができた。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も都市計画の案に係る町長の諮問に対して、適切に対応していく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	都市計画法及び町条例で設置が示されている審議会であり、今後も都市計画決定案件が発生の都度、内容を審議し答申をいただく。		
今後の方向性	都市計画決定案件が発生の都度、内容を審議し答申をいただく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 都市整備課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	土地利用・都市基盤		実施計画事業	住環境向上支援事業(No.38)				
予算等事業名	住宅リフォーム助成事業							
目的	住宅リフォームに対する助成及び土地境界の明確化を図る地籍調査等を実施していくことで居住環境の向上を推進する。							
内容	・住宅リフォーム助成							
根拠法令・条例等	二宮町住宅リフォーム助成交付要綱							
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		30年度をもって事業を廃止する予定だが、町民・事業者からの需要も高いことから、30年度までは経費(予定件数)の削減は実施しない。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		効率化するものではない。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 現在、既に予定件数50件に対して46件(10/27現在)の交付実績があり、今後も引き続き事業を推進する。							

総合評価

実績	予定件数50件に対して、申請件数(交付決定件数)は50件となっている。						
中間評価との相違点	中間評価後、予定件数に達した。						
事業指標(数値指標)	—						
中期(28年度)目標値	50件			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】			
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	予算の範囲内の助成としているため、予定件数を50件としている。			
	50件						

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		2,500	2,500				
財源内訳	一般財源	2,500	2,500				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	B
	【説明】 住環境の向上及び地域経済活性化という助成交付要綱の目的を達成するためには妥当。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 地域経済活性化には企業努力も必要となるが、町内消費が落ち込んでいることから、町が主体となって商工会等と連携して実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 助成交付要綱の目的達成に成果は上がっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 工事費金額の大小を問わず一律50,000円の助成となっているが、歩合制を導入するなどして多くの町民が利用できる制度とすることも考えられる。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 現在、空き家対策・同居近居対策の関係のリフォーム制度もあるため、制度を一本化してわかりやすい制度とすることも必要である。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	空き家対策・同居近居対策の関係のリフォーム制度と統合する方向で検討を進める。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	現状で、一定の成果、効果がある事業だが、対象の物件や工事を見直す(改善)することで、より一層、安心・安全なまちづくりに寄与できる。
今後の方向性	助成を継続的に実施していくことによる、空き家対策等の防災効果や定住促進対策について、検証をかさねていくことで、より実効性のある事業とする。

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 都市整備課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	土地利用・都市基盤		実施計画事業	住環境向上支援事業(No.38)				
予算等事業名	地籍調査事業							
目的	住宅リフォームに対する助成及び土地境界の明確化を図る地籍調査等を実施していくことで居住環境の向上を推進する。							
内容	・発注業務、立会い、委託進行管理							
根拠法令・条例等	国土調査法							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input checked="" type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由	現在計画している区域が、共有者が多数でかつ相続人の照会の困難な地域が集中しているため。				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	専門性が高く、委託をしなければ事業ができないため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	筆の確認や、地権者の洗い出し、立会い等の事務量が膨大であることと、専門的知識が必要なことから、非常に非効率な事務となっているが、解消することは困難である。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	C
	【説明】 現在計画している区域が、共有者が多数でかつ相続人の照会の困難な地域が集中しており、このまま事業を進めても不調になる可能性が高く、計画を見直す必要がある。	

総合評価

実績	本年度、計画の区域は予定通り実施した。		
中間評価との相違点	なし		
事業指標(数値指標)	調査面積		
中期(28年度)目標値	1.0ha		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	2.0ha		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		5,794	3,087				
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金	2,840	1,704				
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 国の方針でもあり、国庫補助も充当されることから、妥当である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 国土調査法に基づいて行う事業である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	C
	【説明】 事務負担の大きさから必要最小限の面積しか実施できておらず、成果が十分ではない。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	C
	【説明】 最小限の面積での実施においても、調整や手続き等の手間は同様に必要となるため効率が悪い	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	D
	【説明】 現在、最優先で取り組むべき地域(津波被害想定エリア)において、相続による地権者照会が困難なことが見込まれるため、休止する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	現在のペースでは、町の地籍調査完了まで200年以上かかる見通しであり、事業における理想と現実の乖離が著しい。	

◎評価者[担当主管課長]

<input type="checkbox"/> ① 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	現在、最優先で取り組むべき地域(津波被害想定エリア)において、相続による地権者照会が困難なことが見込まれるため、休止し、今後の進め方を検討する必要がある。
今後の方向性	スケールメリットが無く、効率が悪い事業となっているため、事務のあり方も含めて検討していく。

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 都市整備課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	土地利用・都市基盤		実施計画事業	駅周辺整備計画事業(No.38)				
予算等事業名	駅周辺整備事業							
目的	町の玄関口として、誰もが安全・安心して利用できる駅前空間を創出するため、二宮駅を中心とした周辺について、バリアフリー化をはじめとした道路整備などの維持管理、及び将来展望のもと利便性を向上させるための整備等を実施する。							
内容	・道路維持管理事業							
根拠法令・条例等								
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由	駅周辺においては、バリアフリー化が進み、現状では、一定の成果がでている。				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	維持管理に必要な費用が膨大になっており、現状から大幅に事業を進めることは難しいため。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	維持管理に必要な費用が膨大になっており、現状から大幅に事業を進めることは難しいため。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				C
	【説明】 一定の成果がでている中、維持管理に必要な費用が膨大になっており、現状から大幅に事業を進めることは難しいため。				

総合評価

実績	適切に維持管理を実施した。				
中間評価との相違点	なし				
事業指標(数値指標)	-				
中期(28年度)目標値	-				【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	現在は、暫定整備が終了し、維持管理が中心となっているため、目標設定は困難である。	
	-				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		113,078	92,451				
財源内訳	一般財源	65,314	68,094				
	国庫支出金	36,664	17,957				
	県支出金						
	その他	11,100	6,400				

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町の玄関口として、誰もが安全・安心して利用できる駅前空間を創出するため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	C
	【説明】 一部、委託により維持管理を実施している。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 必要最小限の費用で効率的に、維持管理を実施している。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	現在、暫定整備が終了して、維持管理のみ実施している状況である。 将来的には、公共施設の再配置と併せた、駅周辺の整備を検討している。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	将来の本格整備に向けた準備作業を推進する。		
今後の方向性	暫定整備の検証、整備計画案に対する関係機関に対する調整等を行い、駅北口周辺の交通規制等も考慮した町の玄関となる北口駅前広場づくりを実施していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 都市整備課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	土地利用・都市基盤		実施計画事業	駅周辺整備計画事業(No.38)				
予算等事業名	南北駅前広場及び南北公衆トイレ等維持管理事業							
目的	町の玄関口として、誰もが安全・安心して利用できる駅前空間を創出するため、二宮駅を中心とした周辺について、バリアフリー化をはじめとした道路整備などの維持管理、及び将来展望のもと利便性を向上させるための整備等を実施する。							
内容	・駅前広場、公衆トイレ、昇降機、駐車場等の維持管理を行う(快適な駅前空間を保つ維持管理)							
根拠法令・条例等	二宮町南口駅前広場駐車場条例							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		現状でも、必要最小限で取り組んでいるため。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		現状でも、必要最小限で取り組んでいるため。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 今後も引き続き、効率的に事業を推進する。				

総合評価

実績	適切に維持管理を実施した。				
中間評価との相違点	-				
事業指標(数値指標)	-				
中期(28年度)目標値	-				【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	保全・管理等については、目標数値の設定は困難である。	
	-				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		15,994	15,783				
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町の玄関口として、誰もが安全・安心して利用できる駅前空間を創出するため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 駅周辺の公共施設は町が管理すべきである。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 必要最小限で成果を上げているため。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 必要最小限で取り組んでいる。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 今後も引き続き、効率的に事業を推進する。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	南口駅前駐車場の指定管理者制度移行に対する検討。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	駅周辺の公衆便所、エスカレーター、エレベーター等は、今後も必要な施設として適正な維持管理を行う必要性が高い。なお、南口駅前駐車場については、管理方法について再検討が必要な時期であり、指定管理者制度の導入も視野に入れ検討を進める。		
今後の方向性	南口駅前駐車場の維持管理方法の検討推進。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 都市整備課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	土地利用・都市基盤		実施計画事業	道路整備・管理事業 (No.43)				
予算等事業名	土木管理経費							
目的	町道及び河川の維持管理、新設改良を行う。							
内容	・道路台帳整備、事務機器借上等(道路台帳電子化整備)							
根拠法令・条例等	二宮町工事執行規則 二宮町道路構造等の基準を定める条例							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		道路台帳の電子化により経費削減の可能性はある。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		道路台帳の電子化により、窓口業務が効率的になると思われる。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 今後も引き続き、道路台帳システムの完成と活用に向けて効率的に事業を推進する。							

総合評価

実績	町道認定番号の振り直しと道路台帳の電子化を行った。							
中間評価との相違点								
事業指標(数値指標)								
中期(28年度)目標値				【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	システムの構築につき目標数値の設定は困難である。				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		6,031	6,026				
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町道の維持管理は町が行うべきである。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町道の維持管理は町が行うべきである。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 データをパソコンで検索・印刷ができ、窓口業務の効率化も図れる。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 委託等は適切な価格で発注している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 道路管理者として台帳を整備することは必要であるので、引き続き事業を推進していく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	道路台帳システムに測量図を取り込む。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	町道を管理していく上で必要最低限の経費であり、今後も継続的に必要な事業である。		
今後の方向性	継続的な事業実施による町道の適正な維持管理を実施していく。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 都市整備課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	土地利用・都市基盤		実施計画事業	道路整備・管理事業 (No.43)				
予算等事業名	道路新設改良事業							
目的	町道及び河川の維持管理、新設改良を行う。							
内容	・稲荷谷雨水対策、他の道路改良事業							
根拠法令・条例等	二宮町工事執行規則 二宮町道路構造等の基準を定める条例							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか		
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/> ② 計画より遅れている
<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由	稲荷谷については、対策効果で出ている。他の道路については、優先順位を考慮しながら取り組んでいるが、維持管理費用が膨大になっており、新設改良の拡充は困難。	

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか		
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/> ② 削減は困難
理由	現状でも優先順位を考慮しながら、必要最小限で取り組んでいるため。	

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか		
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/> ② 効率化は困難
理由	法令や安全に配慮し、適切に工事に取り組んでいるため。	

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 今後も引き続き、効率的に事業を推進する。	

総合評価

実績	道路拡幅用地の測量に際し、地元住民の賛同を得られなかった。		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)			
中期(28年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
道路拡幅事業において目標数値の設定は困難である。			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		3,000	108				
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 道路拡幅事業は道路管理者が行うべきである。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 道路拡幅事業は道路管理者が行うべきである。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	C
	【説明】 地権者の相続問題や都合により交渉が進まなかった。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	C
	【説明】 成果はあげられなかった。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	C
	【説明】 地権者の意向等を確認する必要がある。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	今後も交渉は続けていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	年々増加している住民からの道路、河川、雨水排水等の要望に対し対応していくために継続的な実施が必要である。		
今後の方向性	年々増加している住民からの要望に対応していくために経費の確保が課題である。優先順位を付けて対応しているが、なかなか理解が得られないため、地区要望のあり方も含めて対応を考える必要がある。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 都市整備課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	土地利用・都市基盤		実施計画事業	道路整備・管理事業 (No.43)				
予算等事業名	道路維持管理経費							
目的	町道及び河川の維持管理、新設改良を行う。							
内容	・維持管理委託、橋りょう長寿命化対策、道路修繕工事等(道路ストック総点検)							
根拠法令・条例等	二宮町工事執行規則 二宮町道路構造等の基準を定める条例							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか		
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由	点検や修繕等、安全性を確保するために必要な費用が膨大になっており、現状以上の拡充は困難。	

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか		
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	現状でも優先順位を考慮し、必要最小限で取り組んでいるため。	

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか		
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	現状でも、必要最小限で取り組んでいるため。	

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		A
	【説明】 今後も引き続き、効率的に事業を推進する。		

総合評価

実績	維持管理工事や委託事業の執行。		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)			
中期(28年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
維持管理等については、目標数値の設定は困難である。			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		113,078	92,451				
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金	36,664	17,957				
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町道の維持管理は道路管理者が行うべきである。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町道の維持管理は道路管理者が行うべきである。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 町道の適切な維持管理に努めている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 国庫支出金を受けるなど、必要最低限の予算で執行している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 道路施設の管理・点検・修繕など、適切に執行できている。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	優先順位を考慮した適切な維持管理に努めていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	年々増加している住民からの道路、河川、雨水排水等の要望に対し対応していくために継続的な実施が必要である。		
今後の方向性	年々増加している住民からの要望に対応していくために経費の確保が課題である。優先順位を付けて対応しているが、なかなか理解が得られないため、地区要望のあり方も含めて対応を考える必要がある。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 都市整備課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	土地利用・都市基盤		実施計画事業	道路整備・管理事業 (No.43)				
予算等事業名	狭あい道路等拡幅整備事業							
目的	町道及び河川の維持管理、新設改良を行う。							
内容	・境界立会い、用地補償調査、交渉、登記事務、工事発注							
根拠法令・条例等	二宮町工事執行規則 二宮町道路構造等の基準を定める条例							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由	案件の発生に対して実施する事業であるため。				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	案件により、不確定な要素が多いため。		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	用地に係る資料整理や、立会い等の事務が膨大であるとともに専門知識も必要であり非常に手間を要するが財産に関わる事業であることから、効率化することは難しい。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)		A
	【説明】 今後も引き続き、効率的に事業を推進する。		

総合評価

実績	物件補償、用地買収、拡幅工事を施工した。		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)			
中期(28年度)目標値	【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
相手方の申請によるものであり、目標数値の設定は困難である。			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		30,794	29,013				
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金	14,508	7,665				
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 道路管理者として町道のセットバック事業は町が行うべきである。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 道路管理者として町道のセットバック事業は町が行うべきである。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 建築行為等に伴い長期的に行う事業であり、路線単位の拡幅には期間を要する。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 委託や工事の一括発注を行い効率化に努めている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 建築行為に必要な事業であり、買取り単価も通常の拡幅事業より安価である。	
今後の方針 (課題・意見等を簡条書き)	今後も継続的にセットバック事業を行い、災害に強い街づくりを目指す。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	日々の住民の通行や緊急車両の通行に対し、一定の幅員がある道路の確保のために必要な事業であり、今後も継続して実施していく必要がある。		
今後の方向性	災害に強いまちづくりに寄与するためにも、今後も継続して実施していく必要がある。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 都市整備課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	土地利用・都市基盤		実施計画事業	道路整備・管理事業 (No.43)				
予算等事業名	河川維持管理経費							
目的	町道及び河川の維持管理、新設改良を行う。							
内容	・堰堤草刈り、河川清掃、護岸修繕、協議会参加(中村川排水口修繕)							
根拠法令・条例等	二宮町準用河川管理施設等の構造の技術的基準を定める条例							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input checked="" type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由		点検や修繕等、維持管理に必要な費用が膨大になっているため。						

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		現状でも優先順位を考慮し、必要最小限で取り組んでいるため。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		現状でも、必要最小限で取り組んでいるため。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 今後も引き続き、効率的に事業を推進する。							

総合評価

実績	河川の維持管理工事や委託事業の執行。							
中間評価との相違点								
事業指標(数値指標)								
中期(28年度)目標値				【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	保全・管理等については、目標数値の設定は困難である。				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		19,650	18,333				
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 普通河川や水路等の維持管理は町で行うべきである。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 普通河川や水路等の維持管理は町で行うべきである。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 町管理河川等の適切な維持管理に努めている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 必要最低限の予算で執行している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 今後も町管理河川の適切な維持管理に努めていく。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	優先順位を考慮した適切な維持管理に努めていく。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	町民が生活をする上で、排水施設は必要不可欠なものであり、その排出先である河川等の維持管理は、今後も継続して実施していく必要がある。		
今後の方向性	老朽化が進む施設の更新に対し、公共下水道整備と調整を行い、計画的な整備が必要である。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 都市整備課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	土地利用・都市基盤		実施計画事業	地域公共交通計画推進事業(No.44)				
予算等事業名	コミュニティバス運行事業							
目的	路線バス・コミュニティバスの再編・見直しや新たな乗合交通の導入可能性を検討し、日常生活の移動手段が確保されている環境づくりを進める。							
内容	・現行コミュニティバスの運行(再編含む)							
根拠法令・条例等								
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		ルート再編に向けて老朽化した車両の購入を伴うことから、経費の削減は困難。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		誰もが利用しやすいコミュニティバスとすることで利用者数を増やし、町負担額の軽減を図る。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							C
	【説明】 利用実績が低いため、ルート改編等の見直しについて、地域公共交通活性化協議会の中で検討し、誰もが利用しやすい公共交通の確立を図る必要がある。							

総合評価

実績	地域公共交通計画で定める100人/日の目標値に対して40人/日前後と低利用となっている。							
中間評価との相違点								
事業指標(数値指標)	100人/日							
中期(28年度)目標値	100人/日			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	地域公共交通計画				
	40人/日							

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		13,117	12,579				
財源内訳	一般財源	13,117	12,579				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 超高齢社会にある中、公共交通空白地域の解消には公費投入が妥当である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 地域と連携しながら、地域公共交通活性化協議会を主体として実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	C
	【説明】 100人/日の目標値に対して40人/日にとどまっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 より利用してもらうためにも、回数券とは違った手法による利用促進方法を導入する必要がある。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 低利用にとどまっていることから、より利用しやすいバスとなるよう地域公共交通活性化協議会で検討した結果、平成29年度にルート等の見直しを実施することとなった。	
今後の方針 (課題・意見等を簡条書き)	新ルートに合わせて利用を促進することで、多くの町民に利用してもらい、路線バスを補完する公共交通の維持を図る。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	公共交通空白地域の解消には事業実施がかかせないため。		
今後の方向性	平成29年度に車両やルート等、全面的な見直しを実施するとともに、「手形」システムも導入し、より利用者が増えるよう改善策を投じる。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 都市整備課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	土地利用・都市基盤		実施計画事業	公園整備・管理事業 (No.46)				
予算等事業名	公園等維持管理運営経費							
目的	都市公園、児童遊園地等施設の維持管理を継続的に実施し、負担軽減に向けた公園の配置の見直しを行う。また、施設を整備し利用者の安全を図り適切な公園運営を行なう。							
内容	・町内各公園維持管理							
根拠法令・条例等	都市公園法							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施		
②、③に対する理由									

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難					
理由		公園の統廃合計画を策定する予定であり、その中で配置の整理や機能の集約を行い、維持管理費の軽減・圧縮を図る。							

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか									
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難					
理由		公園や緑地などは地区で管理している箇所もあり、「公園愛護会」等ボランティア活動を積極的に導入することで効率化を図ることができる。							

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)						B	
	【説明】 安全かつ町民の憩いの場として公園施設の維持管理に努める必要があり、一部地域で実施されている「公園愛護会」等ボランティア活動を積極的に導入することで、経費削減を図る。							

総合評価

実績	都市公園、児童遊園地、子どもの広場の施設の修繕等の維持管理 随時 遊具の日常点検・定期点検の実施 適宜								
中間評価との相違点									
事業指標(数値指標)	-								
中期(28年度)目標値	-				【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度						
	-								

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		87,386	84,417				
財源内訳	一般財源	87,386	84,417				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 遊具の定期点検及び修繕等の維持管理業務は、公園内施設の安全確保のため、町単独費で実施する必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 一部の公園で公園愛護会等のボランティアが草刈りなどの維持管理業務を行なっているが、点検など人災に関わるものがあるため町で行う必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 遊具等の点検については専門技術者が行う定期点検を実施しており、適正な維持管理が図れている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 公園や緑地などは地区で管理している箇所もあり、今後も協力を得る必要がある。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 公園施設の維持管理を適切に行うため管理形態の見直しも必要である。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	公園施設の修繕や点検を今後も実施し、利用者の安全確保を最優先に考える。また、利用の少ない公園の統廃合を検討し、財政負担軽減に向けた適切な配置と利用の多い公園の更なる充実を図る。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	安全かつ町民の憩いの場として公園施設の維持管理に努める必要があり、引き続き事業を実施するが、草刈り等、簡易かつ専門性を要しない維持管理について、一部地域で実施されている「公園愛護会」等ボランティア活動を積極的に導入することで、経費削減を図っていきたい。		
今後の方向性	継続的な公園施設の維持管理及び「公園愛護会」等地域ボランティア活動の推進を検討する。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 都市整備課		
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり	
分野別方針	土地利用・都市基盤		実施計画事業	公園整備・管理事業 (No.46)	
予算等事業名	公園等整備事業				
目的	都市公園、児童遊園地等施設の維持管理を継続的に実施し、負担軽減に向けた公園の配置の見直しを行う。また、施設を整備し利用者の安全を図り適切な公園運営を行なう。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・町内各公園の修繕・改修 ・公園の統廃合(基本方針の策定) 				
根拠法令・条例等	都市公園法				
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
			<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		公園の統廃合計画を策定する予定であり、その中で配置の整理や機能の集約を行い、維持管理費の軽減・圧縮を図る。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		公園の配置の整理や機能の集約を行うことで、公園の充実を図ることができる。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				B
	【説明】 平成28年度中に「二宮町公園統廃合に関する基本方針」を策定した。今後は、統廃合計画を策定し、配置の整理等を行い更なる公園の充実を図る。				

総合評価

実績	百合が丘公園内の階段に手摺を設置した。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	-				
中期(28年度)目標値	-		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
	-				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		681	528				
財源内訳	一般財源	681	528				
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 百合が丘峠公園内の階段箇所到手摺を設置することにより利用者の安全を図れている。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 公園等の利用者の安全確保のため、町で行う必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 地区要望で整備依頼があった箇所であり、利用者の安全確保が図れている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 見積もり合わせを行うことにより経費削減が図れている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 必要最小限の費用で効果的に整備を実施している。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	利用の少ない公園の統廃合を検討し、財政負担軽減に向けた適切な配置と利用の多い公園の更なる充実を図るため、用途に応じた公園を整備を図る。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持 <input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	今後も必要に応じて整備を推進する。
今後の方向性	町内の公園、児童遊園地、こどもの広場について、統廃合に向けた見直しに着手する。その結果により必要に応じた公園整備を推進していく。

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 都市整備課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり				
分野別方針	土地利用・都市基盤		実施計画事業	自然保護事業(No.47)				
予算等事業名	緑地等維持管理経費							
目的	町管理の緑地等の維持管理を実施し、民有地の樹木の保全に助成を行ない樹木の保全を図る。							
内容	・町管理緑地の維持管理							
根拠法令・条例等	都市緑地法、緑の基本計画、二宮町緑の保全及び緑化の推進に関する要綱							
体制	<input type="checkbox"/>	町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	
<input type="checkbox"/>	③ 未実施				
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		草刈りなどの維持管理業務は、近隣周辺の防災に関わるものがあるため、町で行う必要がある。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる		<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		県が指定区域内の山林等の所有者に対し交付する自然保護奨励金を有効に活用している。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				B
	【説明】 緑の基本計画に基づく「緑の確保目標」の達成に向けて事業に取り組んでいるが、更なる推進に向けて取り組む必要がある。				

総合評価

実績	自然保護奨励金の交付件数:4件 自然保護奨励金により保護されている緑地の面積:87,484㎡				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	自然保護奨励金制度の対象面積				
中期(28年度)目標値	80,000㎡			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	毎年、保安林等所有者の維持が困難な状況により、対象地が減少しているため、現在の実績値である80,000㎡を維持することを目標とする。	
	87,484㎡				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		4,243	4,112				
財源内訳	一般財源	4,230	4,104				
	国庫支出金						
	県支出金	13	8				
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町内各所の植栽の維持管理業務は、周辺住宅の防災のため、町単独費で実施する必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 草刈りなどの維持管理業務は、近隣周辺の防災に関わるものがあるため、町で行う必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 市街地内にある緑地の保全に努めている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 県が指定区域内の山林等の所有者に対し交付する自然保護奨励金を有効に活用している。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 緑の基本計画に基づき、市街地周辺における緑の保全に取り組んでいる。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	緑地の保全及び維持管理のために、指定区域内の山林等の所有者に自然保護奨励金を交付し管理しているが、今後も保全のため、奨励金の交付が必要である。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	町が所有している緑地については、今後も継続的に維持管理を実施することで町内の緑地保全に努める。また、民有緑地についても保全を推進するよう努めていく。		
今後の方向性	緑地の保全及び維持管理のために、指定区域内の山林等の所有者に自然保護奨励金を交付し管理しているが、今後も保全のため、奨励金の交付が必要である。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 都市整備課		
基本構想	交通環境と防災対策の向上	重点的方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり		
分野別方針	土地利用・都市基盤	実施計画事業	緑と花いっぱい推進事業(No.48)		
予算等事業名	緑化推進事業				
目的	町内の花壇や公共施設に花苗等を植栽することにより、住民意識の高揚を図る。また、町の緑の将来を見通した総合的な指針となる緑の基本計画の改定を行い、緑化の保全及び緑化を計画的かつ効率的に推進することを目指す。				
内容	・花苗の植栽				
根拠法令・条例等	二宮町緑の保全及び緑化の推進に関する要綱				
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由		花の種を配布し育成状況を確認したが、種からの生育は手間が掛かり困難な状況であった。植栽作業やその後の水やりはボランティアで行なっており、これ以上の削減は難しい。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由		植栽・維持管理作業はボランティアの方で行っており、これ以上の効率化は難しい。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)				A
	【説明】 花いっぱい運動は、植栽の維持管理をボランティア活動によって実施され、事業コストは軽減されている。				

総合評価

実績	箇所数:50箇所 6月16日 マリーゴールド2,521株 ベゴニア2,521株 11月17日 パンジー・ビオラ 1,709株 シロタエギク 552株 キンセンカ 668株				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	植栽箇所数				
中期(28年度)目標値	50箇所			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	町内公共施設及び花壇の箇所数	
	50箇所				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1,600	1,465				
財源内訳	一般財源	1,600	1,383				
	国庫支出金						
	県支出金	77	82				
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 花いっぱい運動は、ボランティアが年2回、街かどや公共空地に花苗の植栽と維持管理を実施し、町内の緑化に努めている。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 花いっぱい運動は、自治会やボランティアの方による協働作業であり、町が主導となり推進していく必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 町内の緑化が確保することができている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 ボランティアの方を活用することで、コストの軽減が図れている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 花いっぱい運動は、植栽の維持管理をボランティア活動によって実施され、事業コストは軽減されている。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	従来、協働で行なっていたボランティア等の高齢化により、参加団体、ボランティア数が減じている。また、海岸線の保存樹木(主に松)が宅地の造成・枯死により減少している。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持 <input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施 <input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施 <input type="checkbox"/> ④ 廃止	
理由	従来、協働で行なっていたボランティア等の高齢化により、参加団体、ボランティア数が減じていることから、ボランティア参加者の増加を目指した上で現状を維持し、町内の緑化に努めたい。
今後の方向性	ボランティア参加者の増加、地域活動の推進を図る。

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 都市整備課	
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-1 災害や犯罪に備えるまちづくり
分野別方針	土地利用・都市基盤		実施計画事業	耐震相談診断事業(No.60)
予算等事業名	耐震診断等事業			
目的	木造建築物の耐震相談会や耐震診断費補助及び耐震改修工事費補助を実施することにより、町民の防災意識及び住環境の向上を図る。			
内容	<ul style="list-style-type: none"> 耐震診断相談会 耐震診断補助 耐震改修補助 			
根拠法令・条例等	二宮町耐震改修促進計画、居住用木造建築物耐震診断補助金交付要綱			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input checked="" type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由		昨年度策定した耐震改修促進計画に基づき耐震化を推進するため		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由		耐震改修促進計画に基づき、耐震化に係る周知方法や無料耐震相談会の実施方法を改善することで、耐震化率の向上を図る。		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)			B
	【説明】 利用実績が低いことから、周知や相談会の実施方法について改善して事業を推進することで、耐震化率の向上を図る。			

総合評価

実績	耐震診断 6件(予定件数:10件) 耐震改修 1件(予定件数:5件)		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)	耐震診断:10件 耐震改修:5件		
中期(28年度)目標値	耐震診断:10件 耐震改修:5件		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	診断:6件 改修:1件		

【目標値の根拠または数値で表わせない指標】

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		3,102	922				
財源内訳	一般財源	977	355				
	国庫支出金	1,450	370				
	県支出金	675	197				
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 震災に強い住環境整備を推進するために公費を投入することは妥当である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 耐震改修促進計画に基づき町が主体となって実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	C
	【説明】 予定件数に達しておらず、また、耐震化率の向上も低調である。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 診断費や改修工事費の助成についてはやむを得ないが、神奈川県建築士事務所協会の協力を得て、費用を抑制しながら事業を推進できている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 助成に関しては、町民が住宅の耐震化に踏み切るきっかけとなるため有効であるが、より町民の防災意識の向上を図るため、制度周知及び耐震相談会の実施方法について改善する必要がある。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	周知に関しては、これまでの広報誌やホームページにとらわれることなく実施し、耐震相談会の実施方法については、建築士事務所協会と協議しながら、有効かつ効率的な運用に努める。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	二宮町耐震改修促進計画に基づき、事業を継続して推進する。		
今後の方向性	町内の耐震化率向上のため、周知方法を工夫することで申請件数の増加を目指す。また、当該補助制度利用者からの要望も多い、耐震改修補助の導入についても検討を図る。		

平成 28 年度 基礎評価シート

		担当部課等名	都市部 都市整備課					
基本構想	交通環境と防災対策の向上		重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり				
分野別方針	環境、防災		実施計画事業	防災・危機管理体制強化事業 (No.62)				
予算等事業名	防災施設維持管理経費							
目的	町の防災力の向上及び危機管理体制の強化を図り、災害時における迅速な応急活動に努める。							
内容	・随時対応							
根拠法令 ・条例等								
体制	<input checked="" type="checkbox"/>	町職員実施	<input type="checkbox"/>	一部委託あり	<input type="checkbox"/>	全部委託	<input type="checkbox"/>	その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか								
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している		<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている		<input type="checkbox"/>	③ 未実施	
②、③に対する理由								

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難				
理由		災害対応のため、緊急性が求められるため。						

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか								
<input type="checkbox"/>	① 検討できる		<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難				
理由		災害対応のため、緊急性が求められるため。						

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)							A
	【説明】 今後も引き続き、事業を推進する。							

総合評価

実績	大規模な災害は発生していない。							
中間評価との相違点								
事業指標(数値指標)								
中期(28年度)目標値				【目標値の根拠または数値で表わせない指標】				
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	災害が発生した場合の対応につき、目標数値の設定は困難である。				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		1	0				
財源内訳	一般財源						
	国庫支出金						
	県支出金						
	その他						

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 災害に対する復旧は町で行う必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 災害に対する復旧は町で行う必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	
	【説明】 大規模な災害は発生していない。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	
	【説明】 大規模な災害は発生していない。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 災害が発生した際に迅速に対応することができる。	
今後の方針 (課題・意見等を箇条書き)	災害時の初動体制や予算確保の方法が課題である。	

◎評価者[担当主管課長]

<input checked="" type="checkbox"/> ① 現状維持	<input type="checkbox"/> ② 改善して町が実施	<input type="checkbox"/> ③ 改善して町以外が実施	<input type="checkbox"/> ④ 廃止
理由	災害時に備え予算枠のみを確保しておく。		
今後の方向性	災害時に備え予算枠のみを確保しておく。		